

# 国際テクノ・センター



INTER-TECHNO

コンサルタントユニット

飯島 一徳さん  
(34歳)  
Iijima Kazunori

## Check

### 保健医療分野を専門に高品質のサービス

国際テクノ・センターは保健医療分野を専門とする開発コンサルティング企業である。1987年の設立以来、この分野で技術協力や無償資金協力、有償資金協力のさまざまなプロジェクトにコンサルティング・サービスを提供してきた。これまでに開発途上国だけでなく、旧社会主義諸国も含めて約40カ国で実績を残している。

保健分野における国際協力や途上国援助の潮流は、1978年のアルマ・アタ宣言以来、2000年に国連で採択された「ミレニアム開発目標」(MDGs)、同じく2012年に国連総会で決議された「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ」(UHC)、さらにポストMDGsと言われる持続可能な開発目標 (SDGs)と変化してきた。この中で日本は世界最高水準の医療技術、医療保険制度の優位性を生かした国際協力を実践してきた。

阿部一博社長は「途上国の保健医療環境の改善

がわれわれの使命。今後もJICAの良きパートナーとして役割を果たしていきたい」と話す。保健医療の分野の案件はODA予算が減少する中でも増加傾向にある。こうした状況に対応するために、同社も陣容の拡大を目指して人材を採用していく方針という。



### company data

株式会社国際テクノ・センター  
International Techno Center Co., Ltd.  
〒111-0056 東京都台東区小島2-18-15 御徒町オオツカビル5F  
設立：1987年6月 資本金：1,000万円  
従業員数：13人(2016年4月現在)  
代表者：代表取締役 阿部一博

### recruitment

新卒採用：あり 中途採用：あり  
募集職種：ホームページを参照  
募集人数：若干名

TEL：03-5820-5450 FAX：03-5820-5454  
E-mail：contact@inter-techno.co.jp  
URL：http://www.inter-techno.co.jp/index.html

### Career Path

- Age 24 米Earlham Collegeに交換留学後、早稲田大学第一文学部(哲学専攻)卒業
- 25 青年海外協力隊でザンビアに派遣、HIV/エイズ予防啓発活動に従事
- 28 国際協力NGOセンター(JANIC)でインターン
- 29 国際テクノ・センター入社

なるにはまだ早いと言われた私ですが、気が付けば入社して5年が過ぎました。若手育成に力を入れる先輩方に鍛えられ、チャンスを与えてもらい、自信と経験を培う

ことで、コンサルタントとしての力を蓄えました。これからも挑戦する気持ちを忘れず、まだ見ぬ多くの人々との出会いと感動を楽しみに頑張りたいと思います。

米 国に留学していた時、人身売買の撲滅に取り組むカンボジアの元高官の講演を聞く機会がありました。そこで開発途上国の人たちの生活や人権を改善するために働く人々がいることを知り、開発協力に関心を持ちました。その後、青年海外協力隊に応募してザンビアに派遣され、コミュニケーションスクールを巡回して授業を行ったり、HIV陽性者の生計向上支援に取り組んだりしました。この2年間は決して楽しいことばかりではなく、つらいこと、腹が立つことも多くありました。自分には向いていないとさえ思ったほどです。しかし、帰国前に開かれた私の送別会で、学校の先生や生徒、地域住民たちが涙を流して別れを惜しんでくれる姿を見て、それまでの苦労が全て吹き飛びました。「ああ、この人たちと仕事ができると本当に良かった」。そう思いました。まさしく9回裏の満塁サヨナラホームラン。これがきっかけ

になって、国際協力の仕事を続けようと思った。協力隊時代にお世話になった専門家の影響で、コンサルティング会社への就職を希望していました。周りからは「コンサルタントは高い専門性と語学力、十分な社会人経験を求められる。あなたにはまだ早い」と言われました。半ばあきらめかけていたところ、「国際協力キャリアフェア」でカウンセリングをしていた方から「あなたを必要としている人が世界にたくさんいて、待っていてくれる。早くそれに気付いて、持ち味のバイタリティーで挑戦しなさい」とアドバイスされ、当社を紹介していただきました。入社してからは、国際協力機構(JICA)の技術協力プロジェクトで業務調整を任されたのを皮切りに、民間連携事業と個別専門業務に従事し、今では副総括として業務管理の経験を積ませてもらっています。コンサルタントに

## 協力隊の経験が今でも原動力